

2020年9月25日

2020年度看護系大学4年生の臨地実習科目（必修）の実施状況 調査結果報告書

一般社団法人日本看護系大学協議会
高等教育行政対策委員会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国で臨地実習ができないという状況が発生した。来春卒業して、新人看護職として社会に巣立つ学生が受ける新人看護職研修に関して、緊急な対応が求められることから、本協議会では8月に、大学4年生の必修の臨地実習科目について、実施状況の緊急調査を行った。結果の概要については、既に厚生労働省への要望書の資料として活用し、ホームページ上で公表している。これからの看護実践・看護教育に資するよう、調査結果報告書としてまとめたので報告する。

I. 調査方法

1. 対象：2020年度4年生の在籍者がいる会員大学263校および大学校2校 計265校
内訳：国立・省庁大学校44校、公立48校、私立173校
2. データ収集方法：グーグルフォームを用いたWeb調査
3. 調査内容：2021年3月卒業予定の4年生における臨地実習（必修科目）についての調査
2020年4月～7月の間に計画された臨地実習の有無、実習科目の詳細および変更内容
8月以降についても同様の内容について調査した。
4. 調査期間：2020年8月4日～8月18日

II. 結果

1. 回答数：222（国立・省庁大学校36、公立45、私立141）
回収率：83.8%（国立・省庁大学校81.8%、公立93.8%、私立81.5%）

2. 回答校の地域別分布

| 地域 | 総数 | 国立 | 公立 | 私立 |
|--------|-----|----|----|-----|
| 北海道・東北 | 28 | 6 | 8 | 14 |
| 関東 | 63 | 5 | 7 | 51 |
| 中部 | 36 | 8 | 9 | 19 |
| 関西・近畿 | 43 | 3 | 8 | 32 |
| 中国・四国 | 27 | 8 | 8 | 11 |
| 九州・沖縄 | 25 | 6 | 5 | 14 |
| 計 | 222 | 36 | 45 | 141 |

3. 回答校の4年生在籍者総数：19,401名

4. 2020年4月から7月までの必修の実習科目について

1) 実習計画の有無

| 上段大学数/下段(%) | |
|----------------|--------------|
| 計画有 | 計画無 |
| 207 (93.2%) | 15 (6.8%) |

回答校 222 校のうち、必修の実習科目を計画していたのは 93.2%と 9 割以上であった。

2) 実習計画のあった科目数

| 上段大学数/下段(%) | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 科目数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 大学数 (%) | 65 (31.4) | 37 (17.9) | 31 (15.0) | 18 (8.7) | 11 (5.3) | 11 (5.3) | 11 (5.3) | 16 (7.7) | 5 (2.4) | 2 (1.0) |

計画があった 207 大学において、計画されていた科目数は、1 科目から最大 10 科目で、総計 695 科目であった。

3) 計画されていた実習の科目内容別科目数

| 科目内容 | 科目数 | 割合 |
|------------|-----|-------|
| 領域別実習 | 530 | 76.3% |
| 統合・総合実習 | 144 | 20.7% |
| その他大学独自の实習 | 21 | 3.0% |
| 計 | 695 | 100% |

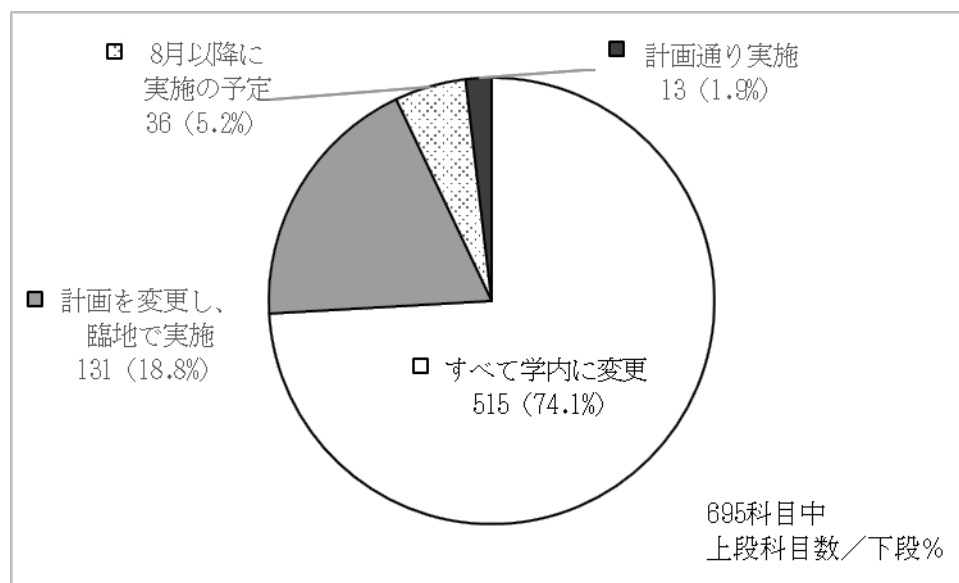
計画されていた実習は、領域別実習が最も多く 530 科目 (76.3%) であり、次いで統合・総合実習 144 科目 (20.7%) であった。

4) 計画されていた実習の科目内容別大学数

| 実習科目の内容 | 大学数 | 割合 |
|-----------------------|-----|-------|
| 統合・総合実習および領域別実習 | 82 | 39.6% |
| 領域別実習のみ | 59 | 28.5% |
| 統合・総合実習のみ | 50 | 24.2% |
| 統合・総合、領域別、その他の大学独自の实習 | 4 | 1.9% |
| 領域別およびその他の大学独自の实習 | 3 | 1.4% |
| 統合・総合およびその他の大学独自の实習 | 3 | 1.4% |
| その他の大学独自の实習のみ | 6 | 2.9% |
| 計 | 207 | 100% |

各大学で計画されていた実習は、統合・総合実習および領域別実習を予定していた大学が 82 校 (39.6%) と最も多く、次いで、領域実習のみ 59 校 (28.5%)、統合・総合実習のみ 50 校 (24.2%) であった。領域別実習はあわせて 148 校 (71.5%) で計画されていた。

5) 計画された実習の実施状況



計画していた実習 695 科目のうち、予定通りに実施できたのはわずか 13 科目 (1.9%) であり、515 科目 (74.1%) が臨地では実施できず、学内実習に変更していた。計画を変更し、臨地で実施したのは 131 科目 (18.8%) であった。

6) 地域別の実施状況 (大学数は複数回答)

| 地域 | 計画通りに実施 | | 計画を変更し 臨地で実施 | | すべて学内に 変更 | | 8月以降に実施 の予定 | | 科目 数計 |
|--------|---------|-----|-----------------|-----|--------------|-----|----------------|-----|----------|
| | 大学数 | 科目数 | 大学数 | 科目数 | 大学数 | 科目数 | 大学数 | 科目数 | |
| 北海道・東北 | 1 | 1 | 4 | 10 | 24 | 80 | 4 | 14 | 105 |
| 関東 | 4 | 6 | 16 | 28 | 44 | 124 | 7 | 7 | 165 |
| 中部 | 1 | 2 | 13 | 39 | 26 | 103 | 2 | 5 | 149 |
| 関西・近畿 | 1 | 2 | 6 | 7 | 38 | 108 | 3 | 3 | 120 |
| 中国・四国 | 1 | 1 | 13 | 31 | 22 | 64 | 1 | 1 | 97 |
| 九州・沖縄 | 1 | 1 | 10 | 16 | 17 | 36 | 1 | 6 | 59 |
| 計 | 9 | 13 | 62 | 131 | 171 | 515 | 18 | 36 | 695 |

実習を計画通りに実施できた 9 大学は全国に分散しており、新型コロナウイルス感染症の発生状況とは一致していなかった。

7) 計画を変更し臨地で実施できた科目の変更内容 (131 科目中) ※複数回答

| 時期を変更した | 上段科目数/下段(%) | | | | |
|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------|
| | 臨地での期間を短縮した | 実習場を変更した | 学内実習と組み合わせた | その他 | 未回答 |
| 67 (51.1%) | 70 (53.4%) | 45 (34.4%) | 94 (71.8%) | 7 (5.3%) | 3 (2.3%) |

臨地での実習期間を短縮した 70 科目において、予定の 2 割以下に短縮されたと回答があったのは 19 科目、2 割から 4 割に短縮が 11 科目、4 割から 6 割が 23 科目であった。

5. 2020 年 8 月以降の必修の実習科目について

1) 計画の有無 (222 大学中)

| 上段大学数/下段(%) | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 計画有 | 計画無 | 未回答 |
| 103 (46.4%) | 112 (50.5%) | 7 (3.2%) |

8 月以降に実習計画があると回答した 103 大学の実習科目の総数は 160 科目であった。

2) 実習実施の見込みについて (160 科目)

| 上段科目数/下段(%) | | | |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 計画通り実施の見込み | 計画を変更して実施の見込み | すべて学内に変更する | 予定が立っていない |
| 33 (20.6%) | 86 (53.8%) | 31 (19.4%) | 10 (6.3%) |

160 科目の実習について、実施見込みについては上記に示すような回答であった。

6. 2021 年 3 月の卒業生への「新人看護職研修」について、例年に比して充実して欲しい点

(自由記述)

来年 4 月の新人看護職研修について、222 の大学のうち 174 大学 (78.4%) から、234 件の記述があった。1 件に複数の内容が書かれているものも多かった。各大学のカリキュラムにより、4 年生で計画されている実習はさまざまであるため、領域別実習で臨地に行けなかった大学、まとめの実習(総合実習・統合実習等)のみいけなかった大学、領域別もまとめの実習も両方とも行けなかった大学が混在するが、以下の意見はすべての大学からのものである。

記述内容は、研修期間を長くしてほしいという希望、研修の内容、研修に当たっての配慮、その他に大別された。

1) 研修期間について

期間を長く確保して欲しいとの 28 件の記述があった。4 年次に実習に行けていないことから、例年よりも臨床に慣れるのに時間がかかる、研修内容が多くなるので時間をかけて欲しい、経験が少ないので時間をかけて欲しい、というのが理由であった。

2) 研修の内容について

新人研修で強化を希望する内容として挙げられた記述は、以下のように分類された。

| | |
|-------------------------|-----|
| ・看護技術・臨床での技術の実施 | 47件 |
| ・コミュニケーション能力・対人関係・かかわり方 | 25件 |
| ・多重課題、優先順位の判断 | 5件 |
| ・状況判断、臨床判断 | 5件 |
| ・他職種連携、チーム医療 | 4件 |
| ・医療安全 | 3件 |
| ・看護過程 | 3件 |
| ・感染予防 | 2件 |

研修の方法として、シャドーイングやロールプレイ、先輩と動く、反復練習、事例検討などが挙げられていた。

3) 新人研修実施に当たっての配慮

①現場での実習時間が少ないことから、例年よりも丁寧な研修、指導を望むという記述が33件あった。

②今年度の実習状況は、大学により異なるが、4年次の臨地実習ができていないことを踏まえて、教員からみて不十分な点についての記述があった。以下、自由記述から抜粋して示す。

- ・統合実習の目ざす現場活動に近い実習が未経験である。看護管理やチーム医療等の実習体験ができていない。現場の看護から、不足を補う経験や研修を組み込んでいただきたい。
- ・既習の学習と知識・技術との統合の部分が欠けているように感じている。
- ・4年生の実習では教員があまり関わらずに主体的にコミュニケーションを取ることや、複数受け持ちへの対応などがシミュレーションとなったので、看護技術や情報共有、申し送りなどのコミュニケーションへの対応を丁寧に行って欲しい。
- ・1年間臨床で患者さんと接することなく看護実践に入るため、臨床への適応に時間がかかることが予測される。受け持ち患者数や勤務体制への配慮、実践場面でのフォロー体制の強化を行ってほしい。
- ・対象と関わる機会が少なくなっていることから、看護観とその表現技術の繋がりが弱くなっていると考えられる。
- ・臨地実習が不十分であることを、スタッフが理解して指導をしていただきたい。
- ・臨地実習時間が短い、ないことを前提とした新人研修を配慮してほしい。
- ・現場での経験が例年の半分であること、オンラインでの学びが主であったことを踏まえた研修を行ってほしい。
- ・実習での緊張感を感じずに終わりそうなので、真剣に自分と向き合う経験が少なかったことで、内省する機会を十分持たせてほしい。
- ・例年よりもフォローアップの期間を短くして頻回の研修を組む。

③領域別実習が臨地で実習できなかった学生がおり、個々の状況が異なっていることを是非わかっ

- ・臨地で実習できた学生とできなかった学生が混在している。できなかった学生が引け目を感じないような精神的サポートをお願いしたい。
- ・1年間10単位の实習(5科目)が全く実施されていないので、4月就職前の3月に独自に研修(大学との協働)などを実施してほしい。
- ・複数の診療科(病棟)におけるローテーション研修(2~3日ずつで良い)を行ってほしい。

④本人の責任ではなく、不可抗力で臨地での実習ができなかったのであるが、これを引け目を感じている学生や、自信がないといっている学性の状況と、その点のサポートを依頼したいと、以下のような記述があった。

- ・1年間臨地に行けなかった学生も多く、不安にかられ、モチベーションも低下しがちで学生らしい意欲を喪失しかねない者も多く予想される。基礎的な技術や態度、看護専門職としての倫理観等に関する研修を今まで以上に時間をかけて丁寧に実施してほしい
- ・就職後の自身の状況に関して、学生の不安も大きいのでオリエンテーション等は丁寧にしていきたい。
- ・学生自身も自身の実践能力に不安を抱えているため、その点を踏まえたサポートをお願いしたい。
- ・急な環境の変化に適応が難しく感じる学生も通常よりも多くなる可能性があると思うため、精神的なサポートを十分におこなっていただきたい。
- ・入職の不安が強いので精神的サポートが必要と考える。
- ・臨地実習を行っていないという不安と劣等感のようなものがあるため、それを配慮した関わりをしていただくと良いのではないかと考える。
- ・臨地実習から1年以上離れているため、新人としての不安は精神的、技術的にとても大きい。この1年の経緯を考えて、新人を受け入れる病院看護部が精神的支援をしていくことを十分に新人に伝えてほしい。
- ・各現場とも余裕のない中、新卒の看護職は、例年よりも厳しい環境に置かれると思いますので、声掛けなど、少し意識していただくと有難い。

⑤学内での学習による強みについても言及があった。

- ・通常の臨地実習よりも丁寧に看護過程を展開し十分に時間をかけた指導を受けることができているなど、遠隔や学内実習ならではの学びがあることも考慮いただければと思う。多少頭でっかちになってしまっている部分も認めていただけると、モチベーションを維持しやすいのではないかと考える。

4) その他の意見

- ・新人研修は必ず実施していただきたい。
- ・新型コロナ感染症が続いている場合、受け入れる側の施設（特に訪問看護ステーションなど小規模の施設）では、新人研修を充実させるためのマンパワー不足も予測され、危惧している。
- ・看護師免許取得後に十分な研修を義務化してほしい。
- ・臨地で実習できなかったこのような学年と従来の入職者とのちがい（できていないことのみでなく、よい点もあれば）など、就職先では比較・検討した意見をいただければ、今後の基礎教育にも活用できるのでありがたい。
- ・学生自身もさることながら保護者の COVID-19 への不安が強いと感じる。病院が実習を受け入れているにもかかわらず、保護者の意向で学生が臨地実習できなかったケースもある。子どもが看護師免許を取得して看護師として就職すると保護者の意向も変化するかもしれないが、医療施設では新人看護師の保護者への対応が必要になる可能性があるのではないかと危惧する。

Ⅲ. まとめ

今回、会員校においてはそれぞれ、新型コロナウイルス感染症への対応が続く中での調査であったが、対象校の 83.8%から回答を得、関心が高いことが示された。

2020年4月から7月の間に、9割以上の大学で4年生の臨地実習が予定されていたが、予定通りに実施できたのはわずか1.9%であり、計画を変更して臨地で実施できたのが18.8%、74.1%が学内での学習に変更していた。

各大学において、臨地実習の目標に到達するまで様々な工夫を行い、これらの単位の習得を可能としたが、3/4の実習では現場での体験がなかったことが、本調査で明確になった。今年度の4年生は、病院等の現場での患者・家族との関わりや、看護師をはじめとした医療スタッフとの関わりの体験が、通例よりは少ないまま、卒業することになる。また、3年生までの臨地実習の後、4年生の1年間は現場体験のブランク期間になる学生も多いこととなる。そして、大学によって、また個人によって、臨地に行けたかどうかは異なっている状況も確認できた。

これらの点から、次年度の新人看護職研修の更なる強化あるいは配慮が必要と考え、本協議会では、8月25日付けで、厚生労働省医政局長あてに要望書を提出したが、今後とも、卒業生が自信をもって仕事をすすめられるよう、支援が必要と考える。本報告書の4ページから、新人研修に対する教員の意見を記載しているが、是非、研修担当者の方々の参考にしていただきたいと思う。

本協議会では、継続的に看護職を輩出することが大学の役割と認識している。今回、新型コロナウイルス感染症によって、臨地実習を変更せざるを得ない現実を、多くの大学が体験したが、それに代わる方法を各大学で見出して、果敢に教育に当たっているところである。今後を見据えて、臨地実習の在り方、シミュレーション教育等、学内での新たな教育方法への取り組みを、加速する必要がある、本協議会として、ここにも取り組んでいく予定である。

担 当：一般社団法人日本看護系大学協議会 高等教育行政対策委員会

委員長 菱沼典子 (三重県立看護大学)
委 員 石井邦子 (千葉県立保健医療大学)
井上智子 (国立看護大学校)
小松浩子 (日本赤十字九州国際看護大学)
小山真理子 (日本看護系大学協議会常任理事)